

生徒会通信 第6号

ラグビー部 中部大会 昨年度を上回りB4準優勝！！

第26回ビーチラグビージャパンツアー中部大会が7月8・9日に若狭和田ビーチで行われた。関西地区からも参加し、76チームが参加する大きな大会である。

昨年度は、慣れない真夏のビーチで熱中症等あったが【B5ベスト4】という記録を残した。

今年は、経験豊富な創部メンバーが多数引退し、4年生のいない若いメンバーがビーチラグビー常連チームにチャレンジする形となった。



ジャパンツアー中部大会は、初日に予選リーグ3試合、2日目に決勝トーナメントと夜間定時制部員にはかなりハードなスケジュールだ。日頃、夜間練習のため2日間で最低4試合は未知の領域であり、熱中症との戦いも待っている。

組み合わせ結果【Dリーグ】になった本校。現地到着後、受付をすると昨年度の印象が強いのか、役員の皆さんに『待っていたよ。去年のよう今年も頑張ってるね』と声をかけられた。笑みがこぼれた瞬間『組み合わせキツイね。常連チームが多いから』笑顔が苦笑いに。本部の予想が現実となり、リーグ戦1・2戦目は経験値の低さが露呈し、社会人チームに完敗となった。天候も大荒れの1日目は、1勝2

敗という結果で終えた。公式戦以外に練習試合もでき、下級生にとって良い経験ができた初日でもあった。

1日目の夜は、恒例のBBQ！！肉をガツガツ食べる人、野菜中心の人、白米を食べない人、改めて個性的な集団であることを実感した。白米を3回もお替りし、大食いNo.1はもちろんコーチ中村先生。夕食後、早朝からの疲れが驚くほど早く生徒の部屋は静かになった。逆に、外は線状降水帯からの豪雨で賑やかな一夜となった。

中部大会2日目、昨晚の豪雨が嘘のように止み、曇り空という本校にとっては最高のコンディションで始まった。

オーバー35大会やキッズ大会もあり、前日以上にビーチは盛り上がっていた。前日の経験を活かし、頂点まで駆け上がることを目標に掲げ、負けたら終わりのトーナメントが始まった。

決勝トーナメント1回戦の対戦チームは、なんと開催県、全日制ラグビー部。しかも、前年、花園【ラグビー全国大会】出場校である。試合前コイントスでキャプテン同士が並んだが、体格・顔つき、何をみてもどちらが強いかは一目瞭然だった。開始直後、あっという間に先制される。高校ラグビーは甘くない、プレーを通して教えられた。しかし、経験が浅い下級生の成長は予想以上だった。入学後、休まずに練習を



してきた1年生トリオが躍動した。技術・経験に勝るチームに対して、がむしゃらに、そしてドロドロになりながら走り、不格好なパスが繋がっていく。キャプテン3年【佐藤舞夢】を経由してトライが生まれた。トライを取り合う一進一退の攻防が続き、試合終了の笛が鳴った。コート上で抱き合っていたのは、【城北つばさラグビー部！！】11対10の1点差のナイスゲームだった。普段からは想像もできないほど感情を表に出し抱き合っていた。

劇的勝利後、更なる成長のため大会本部に依頼して練習試合をした。

下級生の活躍に刺激を受けた2年【久保慎太郎】【片岡駿介】【高木友弔】3年【川越海翔】が意欲的に参加していた。

高校生の勢いというものはすごく、決勝まで勝ち上がった。各トーナメント決勝は大会のとりだ。チーム紹介から試合が始まり、ビーチの緊張感はピークに達した。対戦チームは、大会役員も務める【大飯ブラックス】。各リーグの社会人シードチーム。試合開始から攻め込まれる場面が多かったが、1年生トリオの懸命なDFで最小失点の4点で防ぎ前半を終えた。連日連戦の疲れを考えると後半は更に点差がひらくことが予想された。しかし、毎回予想を覆してきたのがビーチでの【城北つばさ】。そんな顧問の思いは現実となる。後半も、経験値が勝る対戦チームの多彩なサインプレーが襲うが、懸命なDFで防いでいった。0-4で迎えたラストワンプレー、キャプテン【佐藤舞夢】のランニングからトライがうまれた。3-4。トライ後のボーナスプレーが成功すれば同点という状況になった。百戦錬磨の社会人達のDFが立ちはだかる中、裏に抜け出したラストパスをもらったのは、【石丸祥太郎】。前日、部員が休憩する中、経験が積みたいと社会人チームに混ぜてもらい練習試合に参加していた努力家だった。見事なランニングでDFをかわすとトライエリアにボールを運んだ！【同点優勝！！】

順位決定のためのサドンデスプレーが行われたが、ラストプレーで追いついたチームに体力は残っていなかった。【佐藤兄弟】のパスは惜しくもスローフォワード、躍動していた【宮崎哲平】・【石丸祥太郎】コンビDFがブレイクされ、大会終了。

素晴らしい結果で終えたジャパンツアー中部大会。笑顔が溢れているかと思いきや、決勝戦後は目には涙を浮かべている姿があった。この悔しさが来年のジャパンツアーにつながるだろう。

本校に赴任して心のどこかで、全日制ラグビー部とは違う、ましてや勝つことは難しいという思いがあった。2回のジャパンツアーで気づけた。的確な練習と本気の気持ちがあれば、【同じ高校生、できないことはない！！】定時制の部活が全日制の部活に勝つ、予想を覆すことは本気で面白い。過去の自分を超えていく部員達をまた1年間サポートしていきたい。(文責：田舎片)

